

- ハ合纂スルモ妨ナシ
- 第四條 下検査官吏ハ計算書及ヒ證憑書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度六月二十五日以  
内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送附スヘシ
- 第五條 下検査書ハ計算書毎區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 計算書及ヒ證憑書類ノ件名冊數
  - 二 現金出納計算書ト出納帳簿及ヒ計算書ノ殘額ト現存額トノ符合ヲ認メタル  
保証但シ當該下検査官吏コト事實執行ノ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任  
ル官吏ノ保証書ヲ以テスルコトヲ得
  - 三 計數正確 保証
  - 四 法規ニ背戻シ又ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由及ヒ金額
- 第六條 證憑書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其  
提出ノ際之ヲ會計検査院ニ請求スヘシ
- 第七條 歳入歳出外現金出納ノ證明ニ關スル審理書又ハ其報告書ハ總テ下検査官吏  
ヲ經由スヘシ

明治何年度  
歳入歳出外現金出納計算書

三三二  
「凡例」  
計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ  
用紙ハ總テ堅牢ナルモノヲ用ユヘシ  
出納官吏交替其他ノ事故ニ依リ一年度ヲ通セサルモノアルト  
キハ何年度トアルナリ何年月日ヨリ何年月日迄ト改ムヘシ

何 願

(「内ハ朱書」)



證書番 冊號	前年度 越 高		本年度受入		計		摘 要
	円	銭	円	銭	円	銭	
0	0		0		0		保 證 金
	0		0		0		何々保証金
	0		0		0		何々保証金
	0		0		0		合 計
0							拾 得 金
	0		0		0		警察官吏拾得金
	0		0		0		人民拾得金
	0		0		0		合 計
0							何 々 々
	0		0		0		何 々 々 々
	0		0		0		何 々 々
	0		0		0		合 計
0							何 々 々
	0		0		0		何 々 々 々
	0		0		0		何 々 々
	0		0		0		合 計
							總 計
	0		0		0		

證書番 冊號	仕 拂 高		歳入~納付		計		残 高		備 考
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
0	0		0		0		0		「一 殘高總計ノ備考ニ於テ現存額ノ所在ヲ區分詳記スヘシ」
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
0									
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
0									
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		
	0		0		0		0		



明治何年度歳入歳出外ニ係ル現金出納計算書面  
ノ通相違無之候也

年 月 日

出納官吏氏名印

會計検査院長宛

○陸軍

●陸軍兵備品會計規則

明治二十四年三月  
勅令第二十二號

朕陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵備品會計規則

第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第二條 出師準備品トハ左ニ掲ケル諸品ヲ云フ

- 一 兵器彈藥及各兵器具並材料
- 二 祕密圖書
- 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具
- 四 戰用糧秣及炊爨具
- 五 戰用被服及裁縫具
- 六 戰用衛生材料
- 七 戰用獸醫材料
- 八 戰用天幕
- 九 陣中事務用品



第三條 通常兵備品トハ左ニ掲ケル諸品ヲ云フ

一 圖書

二 糧秣

三 被服及裁縫具

四 衛生材料

五 獸醫材料

六 兵營備付陣營具

第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例ト

ス

第六條 出師準備品ハ近衛都督各師團長及當該長官之ヲ管理ス

第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス

第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保

管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス

第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル

第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○海軍

●海軍艦船取外シ物品出納手續

明治二十四年一月  
海軍省達第五號

海軍艦船取外物品出納手續左ノ通定ム

海軍艦船取外物品出納手續

第一條 部内艦船復舊修理及各部改造等ノ爲メ取外シタル物品ノ出納ハ此手續ニ依

リ取扱フ可シ但兵備品並一時ノ取外シニ係ルモノハ此限ニアラス

第二條 艦船修理等ニ際シ取外シタル器具器械其他諸物品ハ鎮守府司令長官造船部

員ヲシテ造船用トシテ後來使用ノ適否ヲ檢査セシム可シ

第三條 檢査終了ノ上ハ檢査ヲ爲シタル者ニ於テ其品名數量及使用ノ適否ヲ明記シ

タル報告書ヲ製シ司令長官ニ報告シ司令長官ハ物品ノ要否ヲ決定シ之ヲ造船部ニ

移送ス可シ

第四條 造船部ニ於テ前條決定ノ報告書ヲ受タルトキ造船材料トシテ後來使用ニ適

スルモノハ其品種毎ニ送付票ヲ製シ造船材料倉庫ニ送附シ該主管之ヲ保管出納ス

ルモノトス但送付票書式ハ別表ニ依ル

第五條 造船部ニ於テ第三條決定報告書ヲ受ケ不用ニ屬スルト認定セラレタル物品



ハ主計部材料課ニ送附シ該課長ハ成規ニ依リ處分ス可シ  
 第六條 造船材料倉庫主管造船部ヨリ取外物品ノ送付ヲ受タルトキ之ニ見積價格ヲ附シテ收置シ造船材料資金支辨ニ係ル物品トハ別種ノ出納整理ヲ爲ス可シ  
 第七條 造船部ニ於テ船舶修理ノ爲メ取外品ノ入用アルトキハ使用ノ事故ヲ摘記シタル要求票ヲ以テ造船材料倉庫主管ニ請求ス可シ  
 第八條 造船材料倉庫主管前條ニ依リ取外物品ヲ造船部へ交附シタルトキハ其物品使用ノ事故何船修用品名數量代價ヲ主計部出納課へ報告ス可シ  
 第九條 此手續ニ明文アルモノ、外ハ總テ海軍通常物品會計規程ニ依リ取扱フ可シ  
 (別表送付票書式略ス)

●出納官吏物品會計官吏交代ノトキ通知方

明治二十四年一月  
海軍省達第七號

出納官吏及物品會計官吏交代シ事務引繼ヲ了シタルトキハ其時日並官氏名ヲ詳記シ所轄長ヨリ其都度第二局長へ通知ス可シ

●通常物品出納命令官會計官吏表中改正

明治二十四年一月  
海軍省達第八號

明治二十三年三月達第百二十九號通常物品出納命令官會計官吏表中鎮守府ノ部吳造船材料及小野濱分工場用器械器具物品ノ欄ヲ左ノ通改正ス

鎮守府	吳造船材料	主計部	長	主計部副官	中
小野濱分工場用	器械器具物品	製造科	長	造船材料倉庫主管	長
		製造科	長	造船材料倉庫主管	長

●軍艦及水雷艇並兵器製造費繰越ニ關スル件

明治二十四年三月  
法律第一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海軍省所管軍艦及水雷艇並兵器製造費繰越ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 明治二十三年度マテニ竣功スヘキ海軍省所管軍艦及水雷艇並兵器製造費繰越ニ關スル法律製造事業ニ係ル繼續費ニシテ竣功遅延ノ爲メ同年度マテニ支出ヲ終ラサル金額ハ明治二十六年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

(同類六九九丁參看)



●在外海軍用地租稅前金拂ノ件

明治二十四年三月 勅令第二十四號

朕在外海軍用地租稅前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
海軍省所管經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得  
在外海軍用地租稅

渡シ官費ヲ以テ其  
家族ニ送附ス但家  
族ヨリ請願アルト  
キハ本人ニ下付ス  
ヘシ第十二條中  
「家族ニ異動アル  
トキハ本人ニ下付  
ス」トキハ本人ニ  
下付スヘシ  
轉居轉籍シタルト  
キハ本人ニ下付ス  
ヘシ  
●海軍志願兵  
家族扶助金支  
給規則第八條  
改正  
明治二十三年  
四月  
海軍省令第  
六號  
明治二十二年六月  
月(省令第三號海  
軍志願兵家族扶助  
金支給規則第八條  
ヲ左ノ通改正ス  
タル後所轄ヲ轉シ  
追徴スヘキモノア  
ルトキハ本人所在  
ノ處ニ於テ追徴ス  
ヘシ  
●海軍志願兵  
家族扶助金支

トキハ本人ニ下付スヘシ

第十條 前條ノ送金ハ郵便爲替若クハ日本銀行爲替又ハ雜部金取扱順序ニ依リ地方  
應ニ送付シ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム

第十一條 死亡者若クハ逃亡者ニ支給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ依リ之  
ヲ下付スヘシ

第十二條 家族扶助金ヲ受クル者家族ニ異動アルトキハ家族又ハ親族ヨリ地方廳ニ  
届出テ各地方廳ハ其都度其旨在籍ノ鎮守府海兵團ニ報告スヘシ單身ノ下士卒家族  
ヲ有シタルトキ亦同シ

第十三條 海兵團ニ於テ前條ノ報告ヲ得タルトキハ直ニ本人所在ノ廳ニ轉送スヘシ  
附則

第十四條 本年五月三十一日マテハ従前ノ例規ニ依リ横須賀鎮守府ニ於テ取扱フヘ  
シ

第十五條 舊規則ニ依リ一箇年金拾圓ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨ  
リ志願兵徵募規則ニ依リ一日金二錢七厘ヲ支給ス

第十六條 舊規則ニ依リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六  
月一日ヨリ九月三十日マテ日割計算ヲ以テ志願兵徵募規則ニ依リ支給スルモノト



給規則第九條  
第十條刪除  
明治二十三年四月  
海軍省令第七號  
月(省令第三號)六  
軍志願兵家族扶助  
金支給規則第九條  
及第十條ヲ削除ス

第十七條 前條ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ依  
リ一日金五錢七厘ヲ支給ス

●海軍軍人傷痍疾病恩給等差例  
明治二十三年七月  
海軍省達第二百六十四號

海軍軍人傷痍疾病恩給等差例ハ明治二十三年七月陸軍省達第四百四十二號ト同一ナル  
ヲ以テ之ヲ略ス

●海軍軍人傷痍疾病恩給等差例第四條削除

明治二十四年二月  
海軍省達第二十七號

明治二十三年七月達第二百六十四號海軍軍人傷痍疾病恩給等差例中第四條ヲ削除ス

科ニ復シ兵卒トナシ前役ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム但  
原兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

●陸軍軍吏部下士ニシテ失官免官ノ者復科服役方

明治二十三年二月  
陸達第三十號

陸軍々吏部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタルトキハ原兵  
科ニ復シ兵卒トナシ軍吏部下士ノ服役年期ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後  
備役ニ服セシム但原兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

●理事主理試験及同試補事務練習方  
明治二十一年三月  
勅令第十號

朕理事主理ノ試験及試補ノ練習ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

理事及主理ハ高等試験ニ於テ司法官ノ例ニ依リ理事試補ハ陸軍省若クハ陸軍軍法會  
議主理試補ハ海軍省若クハ海軍軍法會議ニ於テ三年以上事務ヲ練習セシム

●海軍高等武官任用條例  
明治二十二年七月  
勅令第九十一號

朕海軍高等武官任用條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



















套		外		服			
帽	鈕	製	地	袴	衣	胸	
帽	鈕	式	質	製	地	鈕	
紺羅紗製圖ノ如シ	二號六箇宛二行	堅襟陶ニ重後面ノ帯ヲ刻キ及後面ノ腰部分ス	紺羅紗	略服ニ同シ	白苧城織	略服ニ同シ	白苧城織
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同

(圖式略ス)

●明治二十四年二月勅令第十二號  
海軍服制中左ノ通  
道加ス、下士卒服  
制表中「一等兵曹  
ノ次ニ」等兵曹  
手ヲ加ヘ、二等  
三等兵曹ノ次ニ  
二等、三等兵曹  
ヲ加ヘ、水兵ノ次  
ニ

●海軍服制表中改正  
明治二十三年四月  
勅令第七十號  
朕海軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セヨム  
海軍服制表中左ノ通改正ス

●「信號兵」ヲ加フ  
「下士卒」等章表  
「兵曹」ノ次ニ左  
一行ヲ加フ、信號  
手ニ「櫻葉」ニ箇  
テ圓形ヲ造リ中  
旗ヲ交又シ其直  
ニ「花」一箇ヲ附  
直上ニ「櫻葉」ヲ  
ス、旗及「花」ニ  
同表「等水兵」  
「一等」ノ下行ニ  
「一等」兵曹ノ章  
中ニ左ノ圖ヲ加  
フ(圖式略ス)

將校以下服制表中常服ノ部上衣製式ノ部「折襟」ヲ「堅襟」ト改ム  
外套製式ノ部「堅襟」ヲ「折襟」ト改ム  
少尉候補生正服劔及劔帶ノ部「短劔圖」ノ如シ「短劔」ハ少尉ニ同シト改ム

下士卒服制表

禮	上	地	質
禮服ノ場合ニハ左右臂上ニ 附スル臂章ハ金織ノモノヲ 以テ正服ニ附シ禮服ニ充ツ	紺羅紗	紺「セルシ」	同上
禮服ノ場合ニハ帽章ニ金織 ノモノヲ用ユ以下同上	一等兵曹	二等兵曹	
	一等機關手	二等機關手	水雷夫
	一等技工	二等技工	火夫
	一等船匠手	二等船匠手	木工
	一等銀冶手	二等銀冶手	銀冶
	一等看護手	二等看護手	
	一等看手	二等看手	
	一等主帳	二等主帳	厨夫











名	稱	袴		名	稱	外		名	稱	套		名	稱	雨		名	稱
		任	勅			任	勅			任	勅			任	勅		
名	稱	任	勅	名	稱	任	勅	名	稱	任	勅	名	稱	任	勅	名	稱
以下	四等	絨	絨	地質	側	大線幅一寸一分小線幅一分	大線幅一寸三分	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨	表濃紺絨
寸五分横チ	同	但大線一條小線一條トス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同	但大線一條ノミトス	同
式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式
圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如

名	稱	肩		名	稱	名	稱	名	稱	名	稱	名	稱
		任	勅										
名	稱	任	勅	名	稱	任	勅	名	稱	任	勅	名	稱
以下	四等	以上	三等	品	質	薄白布	白布	地	白布	地	白布	地	白布
丸打金線徑二分五厘	金線十二條ノ鎖狀組トシ長サ凡五寸トス	金線八條ノ鎖狀組トシ長サ凡五寸トス	金線四條ノ鎖狀組トシ長サ凡五寸トス	第二種帽ニ適合ノ縫裁トナス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス	長靴踵ノ上際ニ止ル物入 兩股各一箇ヲ附ス
式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式
圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如	圖	如







四 劔

五 略帶

六 略緒

第三條 禮裝ハ第二種帽ヲ用フル外總テ正装ニ同シ

第四條 通常禮裝ハ肩章ヲ附セサル外總テ禮装ニ同シ

第五條 正装ハ儀式祭典其他文官大禮服著用ノ場合ニ之ヲ著装ス

第六條 軍装ハ從軍及ヒ演習並ニ軍法會議ニ列スルトキ之ヲ著装ス但平常勤務其他ノ公私事ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第七條 禮装ハ任官敘位敘勳又ハ宮中ニ於テ御宴ニ陪シ其他文官燕尾服ヲ著用スル場合ニ之ヲ著装ス但親族ノ賀儀葬祭ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第八條 通常禮装ハ 行幸行啓ノ場所ニ參集シ任官敘位敘勳等御禮ノ爲メ參内シ若シハ補職等ノ辭令書ヲ受クルトキ其他文官フロクコート著用ノ場合ニ之ヲ著装ス但一般ノ賀儀葬祭ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第九條 正装ヲ著装スル場合ニハ短靴ヲ穿ツヘシ

第十條 何レノ服装ヲ問ハス手套ハ白色革製下襟ハ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ

第十一條 從軍又ハ演習ノトキ乘馬ニハ長靴ヲ穿テ徒歩ニハ短靴ヲ穿テ脚絆ヲ著ス

ヘシ其他ノ場合ニ在テハ短靴又ハ長靴ヲ穿テ或ハ脚絆ヲ著シ又ハ著セサル等各自ノ便宜ニ委ス

第十二條 夏袴ハ炎暑ノ際六月一日ヨリ九月一日マテ正装ヲ著用スル場合ヲ除キ何レノ服装ニモ之ヲ著用スルコトヲ得但室内ニ於テ儀式ニ列スルトキハ之ヲ著用スルコトヲ得ス

第十三條 外套ハ何レノ服装ヲ問ハス雨雪天ノ時又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ之ヲ著用スルモノトス但軍装ニ在テハ儀式ノ場所及ヒ上官ノ居室内ヲ除クノ外防寒ノ爲メ室内ニ於テモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十四條 雨覆ハ外套ノ上ニ著用スルモノトス但時宜ニ依リ雨覆ノミヲ著用スルコトヲ得

第十五條 日覆ハ炎暑ノ際軍装著用ノ場合ニ之ヲ用フルモノトス

第十六條 勳章及記章ハ何レノ服装ニモ之ヲ佩用スルモノトス但軍装著用ノ時ニハ場合ニ依リ之ヲ佩用セサルコトヲ得

第十七條 劔ハ衣ノ上ニ劔帶ヲ締メテ之ヲ佩用ス正緒略緒ハ劔ニ附著ス

第十八條 長靴ヲ穿ツトキハ袴ヲ短袴製ニ調製シテ著用スルコトヲ得

第十九條 何レノ服装ヲ問ハス短靴ハ必ス之ヲ袴下ニ穿テ又乘馬ニハ短靴長靴共ニ拍車ヲ附シ短靴ヲ穿ツトキハ留革ヲ用フヘシ



第二十條 脚絆靴及ヒ拍車ノ製式ハ將校所用ノモノニ同シ

(明治十七年第二十二條中但書追加セラル)

(明治二十四年二月閣令第一號) 明治十六年(三月) 太政官第一號 金銀木杯及通加 手續中左ノ通加 條中左ノ通加 待遇ヲ受クル者ニ 戸主ノ下ニ其族ノ 孫及父母妻嫡長子 字ヲ加フノ第一條

第三等 木杯壹個品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス 但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特例

第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二條 公益ノ爲メニ金銀財產等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

寄附金額又ハ價格

拾圓未滿

褒狀

但壹圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ

木杯壹個

拾圓以上百圓未滿 但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ

木杯三組

百圓以上五百圓未滿 但三百圓未滿ハ五拾圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ

銀杯壹組

五百圓以上貳千圓未滿 但千圓未滿ハ二百五拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ



加ア、第六條外國  
人ニ金銀木杯金  
又ハ褒狀ヲ賜  
フヘキ者アルト  
ハ總テ内閣ノ例  
ニ準スルモノト  
ニ係ルトシテハ  
大員ヨリ賞勳  
裁キハ亦同大臣  
經トキハシテ之  
シシムヘシ

貳千圓以上五千圓未満

銀杯三組

但千圓毎ニ品格ニ等差アリ

五千圓以上壹万圓未満

金杯壹個

但二千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

壹萬圓以上

金杯三組

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局  
總裁之ヲ管理スルモノトス

褒章又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府知事縣令管理施行スルモノト  
ス

但勅委任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニ賜フヘキトキ  
ハ第四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルト  
キハ警視總監府知事縣令ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内務卿又ハ農商務卿ハ  
之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其申牒ニ據テ勅委任官並從六位以上及勳六等以上ノ者及華族ノ戶主  
ニハ之ヲ直授シ其他ノ者ハ内務卿又ハ農商務卿ヲ經由シ警視總監府知事縣令ヲシ

司法部省刑局局長從四位河津祐之君  
日本佛蘭西法律學士從六位宮城浩藏君  
從六位勳等林陸夫君 木澤成肅君 編輯

# 現行法規綴

(明治四十二年三月五日第一綴一四日十月二日第二綴出版)

## 廣告

●臺本四綴凡六千頁余 ●豫約實價金四圓五拾錢 ●第一綴金壹圓貳拾錢其他ハ金壹圓拾錢宛 ●每月刊行新定改廢及追加ノ分金貳拾五錢宛 ●代價受取ハ(諸官衙ノ外)總テ通運品代金取付爲替トシ書籍ト引替トス ●豫約前金ハ一切請求セス ●運送費ハ通運便定價(毎月刊行ノ分ハ便宜郵送スルコトアルヘシ) ●每綴發行ノ都度遞次ニ購求スルト全部發行後同時ニ購求スルトハ豫約者ノ望ニ應ス ●見本ハ郵券貳錢ヲ要ス

## 豫約申込凡例

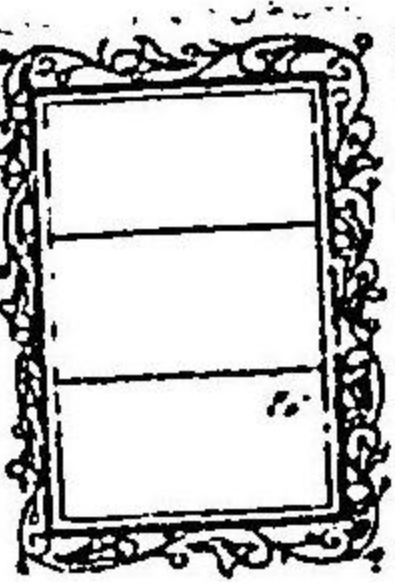
現行法規綴臺本及毎月刊行ノ分共何部豫約申込候也  
年月日 住所 氏名 印  
但順次(全部同時)遞送  
豫約外ノ殘余猶數十部アリテ當分御申込ニ應ス可シト雖モ今既殘部數多カラサレハ後ル、者ハ止ヲ得ス拜謝スル事アラシ

## 發行所

東京市京橋區左衛門町十五番地  
名古屋市長春町三丁目第一  
名古屋市中區上長春町三丁目第一  
九十七番地

## 出張所

東京日本橋區新大塚町十番地  
小 林 喜 右 衛 門  
大阪市東區本町四丁目  
岡 島 新 七  
名古屋市玉屋町三丁目  
片 野 東 四 郎





本編臺本ノ配布ハ諸官衙ヲ除クノ外總テ通運品代金取付爲換ノ豫約ニシテ代價ハ必ス臺本到達ノ上  
通運會社へ現本ト引替ニテ御拂込被下候都合ニ有之候處往々郵便爲換等ヲ以テ御振込被下候向モ有  
之コレカ爲履行違ヒナ生シ意外ノ手數ニ亘リ困難不少加之特約セシ通運會社ハ其事情判明スル迄ハ  
容易ニ現本御渡シ不申様ノ不都合ヲ生シ彼此共ニ迷惑ヲ生シ候間自今品代金取付爲換ニテ御送付致  
候各位ハ現本到達ノ上必ス通運會社へ御拂込被下度奉願候前金全額御拂込ノ諸君又ハ遠隔ノ地ニシテ通運  
不便利ノ爲殊ニ郵送致シ候分ハ此限リニアラス  
但臺本四綴共御送達ヲ終リタル後毎月刊行ノ分ハ勿論郵送ノ筈ニテ賈辦ス郵送改ハ本舖ニ付此分ハ必ス爲換其  
他適宜ノ御都合ヲ以テ前金御振込置被下度若前金御送付無之向へハ發送ヲ見合候義モ可有之此段  
併セテ廣告仕候也

明治廿四年四月廿日印刷  
明治廿四年四月三十日出版

東京市京橋區彌左衛門町十五番地  
發行者 近藤英一郎

愛知縣名古屋市長者町  
編纂者 林 陸 夫

東京市下谷區下谷四町壹番地  
全 木 澤 成 齋

愛知縣名古屋市長者町  
三丁目丁九十七番戶寄留

愛知縣名古屋市長者町  
甲六十番戶寄留

東京市京橋區彌左衛門町  
拾五番地



